



JBA Annual Report

2011-2012

Japan Business Association
NYU Leonard N. STERN School of Business

2012年5月

目次

1. JBA について
 - 1.1. JBA の概容
 - 1.2. JBA オフィサー及び会員数
 - 1.3. 本年度の主な JBA イベント一覧

2. 主要イベント報告
 - 2.1. Japan Trek 2012
 - 2.2. カルチャー・イベント

3. 当校日本人学生の傾向
 - 3.1. 当校日本人学生数の推移
 - 3.2. 当校日本人学生のリクルーティング活動
 - 3.3. 日本人アプリカントのキャンパス・ビジット対応

4. (ご参考) NYU Stern のランキング

1. JBA について

1-1. JBA の概要

JBA は NYU Stern の 40 の学校公認学生クラブの一つです。公認学生クラブはその活動の内容により、企業関連イベントを企画する Professional Club、文化・スポーツイベントを企画する Sports & Social Club 及び各地域をテーマとしたイベントを企画する Community Club に分類されており、JBA は Community Club に該当します。JBA は Community Club の中で、唯一、国の名前を冠するクラブであり（その他の Community Club は Asian Business Society、Latin America Business Association 等、地域毎に組織されています）、今や学内最大規模のイベントとなっている Japan Trek の他、企業関連・文化関連の多種多様なイベントの企画・運営を行っており、その知名度は年々高くなっております。

JBA は、①Stern 並びに NYU Community に於ける日本の産業・経済・文化の普及、プレゼンスの向上、及び②日本における NYU Stern の認知度・知名度の向上、とりわけ日本人アプリカントに対して積極的に情報発信を行い、当校へのアプライ数・日本からの学生数を増やす事、をミッションとして掲げており、これらのミッションに則り、活動を行っております。

その中でも、本年度は「コミュニケーション」と「実行力」をキーワードに挙げ、JBA オフィサー全員で共有して参りました。「強い日本」そして「日本の素晴らしさ」を NYU Community に伝える為のアイデア・方法に関してオフィサー間で情報交換（コミュニケーション）し、それを机上の空論とするのではなく企画する（実行）事を心掛けて活動した結果、本年は昨年比で倍以上の新規イベントを企画する事に成功しました。これらはコミュニティ内での JBA のプレゼンス向上のみならず、JBA オフィサー間でより強い絆を生み出し、チームワーク向上にも繋がりました。

1-2. JBA オフィサー及び JBA 会員数

表 1:今年度の JBA オフィサー

ポジション	名前 (卒業予定年)
President	Yusuke Kurosaki (2012)
Executive Vice President	Nobuhisa Hamada (2012)
VP of Career Development	Tora Unuvar (2012) Masakazu Ikeda (Part-time)
VP of Treasurer	Adrian Pooh (2012) Jason Mitchell (2013)
VP of Corporate Relations	Tomoyuki Sakaguchi (2012) Mario Gamez (2013) Kaibin Huang (2013) Takuto Kawamura (2013)
VP of Event	Ayumi Shinozaki (2012) Anshul Wadhawan (2012) Michelle Chao (Part-time) Henry Leung (Part-time) Taj Corinaldi (2013) Xiaoyin Jia (2013) Tomihiko Teranishi (2013) Jeremy Wee (2013) Judy Shen (Part-time)
VP of Marketing communications	Caroline Kim (2012) Rita Luo (2013)
VP of Alumni/Community Relations	Sabrina Tachdjian (2013)
VP of Japan Trek	Takehiko Hamada (2013)
VP of Part-time	John Cantone (Part-time)

JBA は日本人だけのクラブではなく、2012 年 5 月現在、JBA の活動を中心となって支えるオフィサーは 24 名おりますが、そのうち七割以上は日本人以外で構成されており、Diversity に富んだチームとなっております。各オフィサーがそれぞれのバックグラウンドを活かし、イベントの企画や日常のクラブ活動の運営を行っております。

JBA の登録メンバー数は、以前は 1 学年あたり 40 人強のレベルで推移しておりましたが、増加傾向にあり、現在は 1 学年あたり 100 人近くに上っています。Stern Community に

おける JBA の知名度は、近年、確実に高まっております。

表 2: JBA 登録メンバー数の推移

卒業予定年次	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
Native Japanese	4	7	6	4	6	4	3	3
Non-Japanese	33	29	33	48	108	126	160	109
Others(Part-time)	6	13	15	17	20	18	15	12
Total	43	49	54	69	134	148	178	124

* 登録メンバーには、JBA オフィサーも含まれます。

1-3. 本年度の主な JBA イベント一覧

(2011 年)

- 9 月 Class of 2013 入学、新メンバー加入
Recruiting Meeting (= 2 年生による 1 年生向け就職相談)
JBA-ABS Karaoke Party
- 10 月 Officer Kick-off Meeting
- 10-12 月 Recruiting Events
- 11 月 Thanksgiving Break Japan Trek
- 12 月 Officer Meeting
Sake Tasting Event

(2012 年)

- 2 月 Welcome Back Spring Mixer with Columbia Business School
Japan Society との co-work 開始
- 3 月 Spring Break Japan Trek
Japan Day
- 4 月 Officer Meeting
Alumni Spring Mixer
Japanese Art Gallery Event with NYU Steinhardt School
Passport Day

2. 主要イベント報告

本章では、本年度、JBA が主催したイベントのうち主要なものを紹介させていただきます。

2-1. Japan Trek 2012

Japan Trek とは、JBA が Spring Break (3月中旬の春休み) を利用して MBA 学生を対象として催行している Study Trip です。90年代半ば以降の一時中断を経て5年前に再開し、以来着実に弊校内でそのプレゼンスを増し続けています。

Japan Trek は、(1)企業訪問を通じ日本のビジネス及び企業経営について学ぶ、(2)日本を作り上げているその文化・歴史・伝統を学ぶ、そして(3)Stern の日本人卒業生と交流し人的ネットワークを広げるという3点により、弊社学生にグローバルな視点を養成する機会を提供することを目的としています。

2011年度 Japan Trek は「日本の事をさらに多くの学生に知ってもらいたい」との意向で学校側とも交渉し、参加人数の拡大(100人→110人)に成功いたしましたし、募集に於いても例年以上のスピード(僅か1分強)で参加枠が埋まる等、弊校内でも No.1 トレックの地位を確固たるものとしております。出発日当日に東北地方太平洋沖地震が発生し、2011年度の Trek はキャンセルとなってしまいましたが、弊社に於いて引き続き日本のプレゼンスが高い事を再認識致しました。

2012年の Japan Trek に関しては、前年比で参加者数減少(総参加者数72名)となりました。震災の影響のみならず、例年のような MBA2年生から1年生へ Japan Trek の評判・評価の引き継ぎが行われなかったことが、参加者減の主要因と考えられます。しかし依然として Japan Trek は弊校内でも最大参加者数を擁する Trek であり、来年度に関しては、上記の不安定要素が緩和され例年通りの規模を確保できるものと期待しております。

表 3: Japan Trek 参加人数推移

2006年	2007年	2008年	2009年(*1)	2010年	2011年(*2)	2012年
72名	119名	160名	100名	100名	110名	72名

(*1) 学校側からの人数制限により定員100名となったため参加者が減少。

(*2) 2011年の参加予定者

本年度も東京・大阪・京都・豊田・箱根の五都市を、神社・寺院・歴史的史跡等の訪問、企業訪問・卒業生との交流会を含め、10日間で訪問する密度の濃い日程を作成しました。企業訪問では、今回もトヨタ自動車や野村証券株式会社からの御協力を頂き、各社の文化・技術・国際戦略等について話して頂くべく種々セッティングし、参加学生に日本企業を幅広く学ぶ機会を提供する構成としました。

又、昨年に引き続き東京に於いて弊校の卒業生との交流会を催し、昨年を大幅に上回る卒業生に参加して頂くことができ、年々増していく弊校の卒業生のフォロー、そして弊校の強固なグローバルネットワークを感じました。

今後も引き続き弊社における No.1 Trek として、日本のプレゼンスの維持・向上に努め

てまいりたいと考えております。



トヨタ自動車訪問時全体撮影写真

2-2.カルチャー・イベント

JBA は Stern Community において日本経済・企業だけでなく、日本文化を紹介する活動も積極的に行っております。昨年12月にSAKAYAのRick Smith氏をお招きして Sake Tasting Event を開催して Stern 生に日本酒の理解を深めてもらいました。



Sake Tasting

2月には日本領事館より臼と杵をお借りして、新年会を開催いたしました。日本食料理店にて日本食と合わせ、日本の餅つきを体験してもらいました。今回は **Stern** 生だけでなく、**Columbia** 大の **MBA** 生も招待し、2校で日本に興味のある学生に日本食および日本文化への理解を深めてもらいました。



新年会

3月には **Japan Trek** 終了後に **Japan Day** を **NYU** 内で開催し、日本文化と、1年後の震災の現状について触れてもらう機会を設けました。また、**Japan Trek** で参加者に撮影してもらった日本の面白い写真も展示し、その後に連動して開催した **JBA Beer Blast** で優秀賞を決めるなど、**Japan Trek** 参加者と **JBA** メンバーを軸に多くの **Stern** 生(フルタイム・パートタイム **MBA** 共に)が交流を深めると共に、日本の魅力をアピールする事ができました。



Japan Day



JBA Bear Blast

4月6日に、ニューヨークで初となる、JBA Alumni Mixerを開催いたしました。従来、日本国内の Alumni の活動は本学 Alumni Office から、米国外では最も活発に活動しているグループの一つだと高く評価されておりました。今般、JBA として、ニューヨークにおける Alumni との関係をさらに深めるべく、懇親会を企画いたしました。今回は、卒業以来、約 15 年ぶりに同期で再会された OB の方々や、最近卒業し、ニューヨークで勤務されている OB の方と、現役生が交流を深めることができました。



JBA Alumni Mixer

最後に本年4月に Stern の留学生が母国の文化を紹介する Passport Day イベントが開催され、我々JBA も日本を代表して寿司、お茶を Stern 生に振舞った他、パフォーマンスを披露し、大変好評を頂きました。なお、お茶については伊藤園様の御好意により無償で提供していただきました。



Passport Day

3. 当校日本人学生の傾向

3-1. 当校日本人学生数の推移

米国のビジネス・スクール全般の傾向として、企業派遣の減少や中国や韓国からの留学生の増加により、日本人学生数が減少していると言われていています。同様の傾向は NYU Stern でも見られ、90年代初頭には一学年に40名超も在学していた日本人学生数も減少し、近年は3～6名で推移しております。なお、NYU Stern Full-time プログラムの一学年平均学生数は400人前後、総アPLICANT数（含む全国籍）は4,500名前後となっており、また表5にて述べる通り、一学年あたりの日本人総アPLICANT数は40人前後と推測されます。Class of 2014は、6名が入学を予定しております。

表4: 当校日本人学生数の推移

卒業年次	日本人学生数 ^{*1}	うち企業派遣学生数
2008	6	5
2009	4	0
2010	6	3
2011	4	3
2012	3	3
2013	3	2
2014	6	N/A

*1: フルタイム学生のみ

当校日本人学生の私費留学・社費留学の内訳は、年毎に大きくばらつきが見られ、当校 Office of Admissions が、選考過程において社費留学に特別の優先度を設けていないと言及していることと整合的だと言えます。非公式なものではありますが、JBA がキャンパス・ビジットの対応等を通じて入手したデータでは、キャンパス・ビジットで来校する学生の内訳で私費：社費が大凡4：6となっております。

JBA が日本人アPLICANTと会話をする中で、当校はニューヨーク市という場所柄のため住居費を含めた生活費全般が米国他地域比で高いことが、私費留学生在が当校を選択することにおいて妨げとなっているという意見が聞かれます。私費留学生に対しては、マンハッタンの近隣で生活費が安い地域を積極的に案内する等、生活面での不安感の払しょくに努める一方、アPLICANTに充分認識されていない事実として、ニューヨークに居を構えることによる就職活動のメリット（多くの企業がニューヨークでプレゼンテーションを開催する、就職活動に伴う移動に掛かる時間的・金銭的負担が軽い、企業数・求人数が他地域比で多いため現地企業への就職活動において有利等）を訴求しています。JBA では、キャンパス・ビジット等でアPLICANTと面談する際には、このような総合的なマンハッタンの利点を訴えております。

3-2. 日本人学生のリクルーティング活動

JBA は、リクルーティング担当のオフィサーを設け、日本での就職を希望する学生（日本人以外の学生を含む）に対する企業セミナーの案内や就職相談を行っております。また、日本で NYU Stern の MBA 学生の採用を検討されている企業の窓口となり、学生との橋渡しをしております。近年、NYU と従来からリレーションがある金融機関やコンサルティング会社に加え、事業会社からのアプローチが増加しています。企業戦略部門、海外部門やマーケティング部門で NYU の学生を採用したいという企業が、NYU のキャンパスやその周辺で説明会を開催する機会が増えております。

3-3. 日本人アプリカントのキャンパス・ビジット対応

JBA は、日本における NYU Stern の認知度の向上をミッションの一つとして掲げており、特に日本人受験生への情報発信を重要な活動と位置づけております。Hospitality をテーマに、①在校生とのランチ・Q&A セッション、②キャンパス案内、③授業見学への案内を積極的に行い、在校生の実体験に基づく当校のカルチャーやカリキュラム、課外活動についてより深く知って頂く機会を提供しております。

本年度の日本人アプリカント訪問者数は 41 名と一昨年以来の増加傾向を維持し、またキャンパス訪問が出来ない出願者については Skype で面談し NYU の魅力を着実に発信しております。Business School ランキングの上位安定、日本人卒業生の活躍、また私ども JBA の広報活動により、日本における NYU Stern の認知度は確実に高まっていると認識しております。

今年度は、Admission Office と連携し、面接のため来校する受験生と接触し、面接前に日本人学生との面談をセットし、面接の傾向と対策を伝え、合格者数が増加するよう努めました。結果、近年では久しぶりとなる、6 名の入学者を確保することができました。

表 5: 当校にキャンパス・ビジットした日本人アプリカント数

年度	日本人訪問者数
2006-2007	10
2007-2008	30
2008-2009	26
2009-2010	14
2010-2011	30
2011-2012	41

集計期間は 5 月 1 日～翌年 4 月 30 日

また、JBA は Stern の Admissions オフィスとも連携し、以下のイベントについて、企画・参加しました。

2010 年 7 月 アゴス主催 MBA 夏まつり参加

2010 年 9 月 東京での在校生・卒業生による学校説明会および Q&A

4. NYU Stern のランキング

近年、NYU Stern の米雑誌等によるランキングは概ね上位で安定的に推移しております。また個別分野においては、強みとされている Finance や Part-time プログラムでは全米でトップ・クラスの評価を得ています。加えて、全学的に強化を図っている Marketing 分野でもその効果が実現しつつあり、US News 2012 Ranking では Marketing が 9 位にランクインしました。

US News 2012 (総合)	11 位
Finance	3 位
Accounting	8 位
Marketing	9 位
International	6 位
Information System	10 位
Part-time プログラム	4 位
EMBA プログラム	7 位
Financial Times 2011 (Global Ranking)	15 位
Business Week 2010	18 位
UTD Research Contributions 2007-2011	6 位

以上